

平成27年度事業計画書（平成27年4月1日～平成28年3月31日）

当財団の目的は、「民族学・文化人類学等の振興を図るため、国立民族学博物館等関係諸機関と連携しその普及に努める。それらの活動を通して人類の多様な社会や文化に対する市民の理解と教養を培い、社会の発展に寄与する。」と定款に定められ、その目的を達成するための各種事業を推進し、また多様な文化振興や次世代育成等さまざまな社会貢献活動に取り組んでいる。

1.民族学・文化人類学等普及事業

一般市民を対象に、民族学・文化人類学の普及のため、国内唯一の民族学・文化人類学の研究センターである国立民族学博物館の協力のもと、学術情報をわかりやすく提供する各種事業を企画・実施する。

- 1) 国立民族学博物館収蔵資料「梅棹忠夫アーカイブズ」の整理及びデータの整備への協力
膨大な梅棹忠夫アーカイブズ資料を整理し総合的に関連付けた基礎データを作成。この基礎データは、研究者による内容把握や相互関連などの研究に資するとともに、最終的には、日本の民族学研究史、探検史、梅棹忠夫の学問体系の成立過程の解明などに関する研究者の分析結果を動的に反映できる、参加型・成長型の梅棹忠夫デジタルアーカイブズ構築の基本情報となる。
- 2) 民族学・文化人類学の研究促進・普及を目的とした図書の企画・編集・発行
家庭学術雑誌『季刊民族学』4号（152号～155号）の編集、発行及び集広をおこなう。

2015年度『季刊民族学』

環境問題や災害、地域紛争、さらに急速に進む高齢化など、われわれをとりまく社会状況が深刻さをますますなすなか、それら諸問題に対し、民族学を中心とする関連諸科学の視点から丁寧にアプローチを試みることにより、偏向のない理解を目指す。くわえて、地域創生が標榜される昨今の状況を鑑み、本年度は、日本国内、とりわけ地域文化の紹介に注力し、連携を模索する。

152号（4月25日発行予定）

特集1 復興への道4 「震災の記憶を継承する」林勲男（民博准教授）ほか【日本】

特集2 西欧社会の多様性【ヨーロッパ】

「カタルーニャへの道」山道佳子（慶応義塾大学教授）ほか

「四つの地域と、ひとつのスコットランド」美濃部京子（静岡文化芸術大学教授）ほか

その他の記事 「イスラーム建築の織りなす世界—多様性と共通性」深見奈緒子（早稲田大学
研究院教授）【西アジア】

153号（7月25日発行予定）

「楽器の文化史」富田晃（弘前大学准教授）【世界】

「日本人と草地」須賀丈（長野県環境保全研究所主任研究員）【日本】

「戦争記憶の継承と、それにかかわる人びと——アウシュビッツの事例から」

加藤久子（国学院大学研究員）【ヨーロッパ】

「ガダルカナルの民族誌」藤井真一（大阪大学博士課程）【オセアニア】

154号（10月25日発行予定）

「生誕100周年記念 泉靖一と民族学」【南米～世界】

「カレーとの出会い」辛島昇（東京大学名誉教授）【南アジア】

「日系アメリカ人社会—戦前・戦中・戦後」武沢泰子（京都大学教授）【アメリカ】

「ミツバチと暮らす—人と自然の共生」竹川大介（北九州市立大学准教授）ほか【日本】

「連載 介護ミンゾクガク①」六車由美

155号（1月25日発行予定）

「アラブの基層文化」堀内勝（中部大学名誉教授）【西アジア】

「不死の国 チャチャポヤ」関雄二（民博教授）【南米】

「神が降り立つ郷 諏訪」執筆者候補未定【日本】

「連載 介護ミンゾクガク②」六車由美

3) 民族学・文化人類学の普及を目的とした各種講演会及びセミナー等の企画・運営

国立民族学博物館友の会会員をはじめ、一般市民を対象に、民族学・文化人類学の普及のため、国立民族学博物館の協力のもと、学術情報をわかりやすく提供する各種事業を企画・実施する。

2015年度は、「友の会講演会」を大阪で12回、東京他で6回の開催をおこなう。「みんなく見学会」3回、「体験セミナー」2～4回、「民族学研修の旅」2回、午餐会2回を下記のとおり実施する。

2015年度「国立民族学博物館友の会」

今秋開催の特別展「韓日食博」、また大学機関との学術交流協定提携に併せて、「食文化」に焦点を当てた新シリーズ「世界の食文化を学ぶ」を打ち出す。食文化研究の課題、食に関する知識、知恵、慣習、近年の動向について学ぶ機会とする。9月、10月は特別展と連携した話題を取り上げ、講演会終了後ワークショップへの参加を促す。また新構築フォーラムや企画展に併せた回も設け、様々な民博の取り組みを紹介する。

講演会終了後は茶話会形式の質疑の時間を設け、研究者と受講者の交流を深める機会を設ける。また新シリーズ開講にちなみ、世界各地のお茶を提供し、味覚を通して世界の諸文化に触れていただく機会とする。会員外の一般市民（参加料：実費）へも、広く学ぶ機会を提供する。

① 国立民族学博物館友の会講演会

大阪：毎月第1土曜日 14:00～16:00（茶話会若しくは見学会等含む）国立民族学博物館

通算回数（開催日）：講師(所属) / 「演題」

第441回 4月4日 [世界の食文化を学ぶ①]

つくられる地域の食—スローフード発祥の地、イタリアから考える 宇田川妙子（民博准教授）

第442回 5月2日 [新南アジア展示関連]

躍動する南アジアの背景にせまる 三尾稔（民博准教授）

第443回 6月6日 [企画展「岩に刻まれた古代美術」関連]

- 聖なる遺跡は物語る—アムール川の少数民族ナーナイの神話を探る 佐々木史郎 (民博教授)
 第 444 回 7 月 4 日 [新南アジア展示関連]
 ヨーガの隆盛を探る—現代インドにおける「伝統」の再評価
 竹村嘉晃 (現代インド地域研究国立民族学博物館拠点 拠点研究員)
 第 445 回 8 月 1 日 [新南アジア展示関連]
 インドを彩る日本のタイル—インド近代化遺産のもうひとつの物語
 豊山亜希 (現代インド地域研究国立民族学博物館拠点 拠点研究員)
 第 446 回 9 月 5 日 [世界の食文化を学ぶ②]
 日韓の汁文化と発酵食品の対照 (仮) 福留奈美 (お茶の水女子大学専門食育士)
 第 447 回 10 月 3 日 [世界の食文化を学ぶ③]
 「医食同源」の思想—中国の食と漢方 (仮) 池谷幸信 (立命館大学教授)
 第 448 回 11 月 7 日 [世界の食文化を学ぶ④]
 帰属意識の形成と表象—流動する民族、客家がつくる客家の食 (仮) 河合洋尚 (民博助教)
 第 449 回 12 月 5 日 [世界の食文化を学ぶ⑤]
 日本人漁業移民が影響を与えたカナダの水産界と魚食文化 (仮) 河原典史 (立命館大学教員)
 第 450 回 2016 年 1 月 9 日 [新東南アジア展示関連]
 異種混淆の世界・東南アジア 信田敏宏 (民博教授)
 第 451 回 2016 年 2 月 6 日 [新東南アジア展示関連]
 東南アジアの住まいにみるシンボリズム 佐藤浩司 (民博准教授)
 第 452 回 2016 年 3 月 5 日 [世界の食文化を学ぶ⑥]
 食文化研究の課題と展望 (仮) 池谷和信 (民博教授)

東京 他 : 14:00~16:00 予定 (茶話会若しくは見学会含む)

- 第112回 4月11日 (土) <東京> [民博共催展覧会「スピリチュアル グリーンランド」関連]
 「氷の島」に生きる人びと—グリーンランド・イヌイットの文化と歴史 岸上伸啓 (民博教授)
 第113回 6月頃<福島> [巡回展「イメージの力」関連]
 アート (美術) と人類学のあいだ (仮) 吉田憲司 (民博教授)
 第114回 5~7月 <東京> [新南アジア展示/第86回研修の旅関連]
 ネパールの今と昔—1982年の映像から (仮) 南真木人 (民博准教授)
 第115回 9~10月 <名古屋> [世界の食文化を学ぶ]
 第116回 11~12月 <東京> [第87回研修の旅関連]
 チョコレートの起源をたどる—メキシコの文化遺産に探る人とカカオの関係
 八杉佳穂 (民博教授)
 第117回 1~2月 <東京> [新東南アジア展示関連] 檜永真佐夫 (民博准教授)

② **みんなく見学会** 大阪 : 土曜日 15:20~16:10、国立民族学博物館展示場で開催
 通算回数 (開催日) : 「展示名」 / 講師(所属)

第 57 回 (5 月 2 日) : 新 南アジア展示 / 三尾稔 (民博准教授)

第 58 回 (6 月 6 日) : 企画展「岩に刻まれた古代美術」 / 佐々木史郎 (民博教授)

第 59 回 (2016 年 1 月 9 日) : 新 東南アジア展示 / 信田敏宏 (民博准教授)

③ 体験セミナー

通算回数 (開催日) : 講師(所属) / 開催地 / 「演題」 / 内容

第 70 回 : 飯田卓 (民博准教授) / 大阪府 / 「日本の食文化 昆布のうま味(仮)」

第 71 回 : 朝倉敏夫 (民博教授) / 佐賀県 他 検討中

第 72 回 : 検討中

④ 民族学研修の旅

通算回数 (開催期間) : 「タイトル」 / 同行講師(所属) / 内容

第 86 回 (9 月 20 日 ~28 日 9 日間) :

「ネパールを知る—多様な文化(仮)」 / 南真木人 (民博准教授)

ネパールは日本の5分の3の国土でありながら、多様な自然環境天候、地形が混在する珍しい国で、民族、宗教、習慣など様々な側面でも多様性が見られる。国家的大祭 (9月インドラジャトラ、もしくは11月ティハール) 開催時に訪問し、ヒンドゥーと仏教の混淆する宗教世界、精神世界を探る。

第 87 回 (2016 年 3 月頃 期間未定) :

「チョコレートの起源をたどる—メキシコの文化遺産に探る人とカカオの関係」 / 八杉佳穂 (民博教授)

マヤ文明やアステカ文明などの高度な文明が栄えた中南米。トウモロコシ、トマトやカカオなどの食べ物や嗜好品の多くは中南米が起源。なかでもチョコレートの原料であるカカオは、お金、薬、貢納品、飲み物など様々な形で利用されてきた。遺跡探訪のみならず精神世界、歴史、「チョコレート」以前のカカオの利用法や栽培、料理等からカカオと人の関係を探る。

⑤ 午餐会 ※国立民族学博物館友の会 維持会員対象

時事的なテーマを取り上げ、国際情勢を文化人類学の視点で読み解き、未来社会のあり方を考える。2015 年度は、5 月及び 10 月頃に開催予定。

2. 国立民族学博物館利用促進事業

国立民族学博物館の利用の促進を目的として、一般市民を対象に、各種協力事業を実施することにより利用者の便宜を図る。

1) 国立民族学博物館の展示理解向上及び普及のための教材制作事業

国立民族学博物館 本館展示の『展示ガイド』、特別展及び企画展の解説書の編集・制作

2) 国立民族学博物館の展示理解向上ための教材頒布、

及び広報普及事業としてのミュージアム・ショップの運営事業

- ① 国立民族学博物館 本館展示の『展示ガイド』、特別展及び企画展の解説書、
『月刊みんぱく』、『研究報告』、『民博通信』等民博刊行物の頒布
- ② 国立民族学博物館の映像資料の複製発行及び頒布
- ③ 国立民族学博物館オリジナルグッズの開発・販売
展示品のレプリカ、カレンダー、ポストカード、Tシャツ、クッキー、クリアファイル、
スタンプ、トートバッグ、ステッカー、鉛筆、ノートブック、レターセット等
- ④ 現地産民族資料及び民族学・文化人類学関連図書の頒布

2015年度 ミュージアム・ショップ オリジナル商品制作計画-----

1. 特別展「韓日食博」オリジナル商品：

展覧会をイメージし象徴する商品を企画・制作し、魅力ある店頭イメージづくりと
通販サイトでの広報を目指す。

2. 〈民族学・文化人類学の〉研究機関として民博をモチーフとした商品群：

フィールドワークに必要な道具類（文房具）の開発に先駆け、フィールドノートの定番
「測量野帳」をより便利に使うための商品を企画し、民博開館39周年（サンキュー）
にあたる2016年を目標に、「測量野帳」を検索ワードにしたマッチングワードに
「みんぱく」がなるよう広報イベントでもりあげてゆく。

3) 国立民族学博物館の普及事業

民族学・文化人類学及び国立民族学博物館の広報普及を目的として実施している。

① 「国立民族学博物館友の会」の運営

「国立民族学博物館友の会」は、一般市民を対象とし、民族学・文化人類学及び国立
民族学博物館の広報普及を目的とするとともに、国立民族学博物館と市民の間のかけ
はしなる役目を担い、講演会や出版物等をとおして博物館活動や研究成果を一般市民
に紹介し、博物館の利用に対して便宜を図るため運営している。

② 国立民族学博物館友の会 会員（維持会員・正会員・キャンパスメンバーズ・ みんぱくフリーパス）の増強をおこなう。

③ 国立民族学博物館広報誌『月刊みんぱく』の編集協力・制作及び編集事務を受託し実施 国立民族学博物館の広報普及を目的に制作している。

4) 国立民族学博物館来館者の学習支援事業

博物館の利用に対して便宜をはかることを目的として実施している。

- ① 「展示解説シート」の編集協力・制作
- ② 展示案内学習支援等業務を受託し実施
- ③ 研究資料整理・情報化及び利用管理業務を受託し実施
- ④ 民族学資料共同利用窓口業務を受託し実施

- ⑤ 関連催し物の開催支援及び運営事業
研究公演の運営を受託し実施

5) その他、国立民族学博物館活動に協力する事業

民族学・文化人類学及び国立民族学博物館の広報普及を目的とし、博物館活動等を紹介し博物館の利用に対して便宜を図る。

- ① 国立民族学博物館特別展「韓日食博」・「夷酋列像」、企画展「岩に刻まれた古代美術アムール川の少数民族の聖地シカチ・アリヤン」に対する協力として各種広報活動をおこなう。
- ② みんなく特別講座 カレッジシアター「地球探究紀行」の企画・コーディネイトへの協力

3.博物館活動支援及び調査研究事業

博物館に集積された知的財産を活用するプログラムを企画し、そのあり方を調査研究するとともに博物館活動を支援する。

1) 博物館に集積された資料と情報の活用方法及び博物館等の連携のあり方に関する調査研究

- ① 出前授業プログラム開発及び普及

博物館は、学校や地域活動における学習や教育の現場として期待されている。従来どおりの来館による博物館利用だけにとどまらず、館外においても博物館の有する学習・教育に関する情報やプログラムを利用できるよう、出前授業プログラムの開発に取り組む。

事業の名称：国立民族学博物館に集積された資料と情報を活用した出前授業プログラム
「世界の文化を体験しよう！」

対象：小中学校の授業、放課後教室。教員や放課後教室などの地域指導者への研修。

P T Aや母親教室などの生涯学習活動等。

具体的な出前授業プログラム：〈風呂敷の使い方〉 〈雪の家「イグルー」のひみつ〉

〈糸紡ぎ体験〉 〈ブーメランや動物のお面づくり〉 ほか

- ② 各地の博物館等の施設を活用する巡回展

全国各地の博物館等と連携協力して、国立民族学博物館の広報普及と博物館等の活用推進・振興を目的に巡回展示をおこなう。このことをとおして、全国規模の博物館ネットワークを構築するとともに、それぞれの館のポテンシャルを活かすための展示や、展覧会の運営の仕方を研究する。2015年度は下記の巡回展を実施する。

巡回展「イメージの力（仮称）」 ※日本万国博覧会記念基金事業

開催館：郡山市立美術館（〒963-0666 福島県郡山市安原町字大谷地130-2）

開催期間：6月27日（土）～8月23日（日）

資料点数：約400点

※日本万国博覧会記念基金事業：博覧会のテーマ「人類の進歩と調和」に込められた未来社会に向かって調和のある進歩という願いを受け継ぎ、国内外の公益的な活動に助成金が交付され事業支援をおこなっている。

2) 博物館運営や展示のあり方に関する調査研究

- ① 指定管理者制度における博物館運営に関する調査研究
- ② 巡回展のための什器に関する調査
- ③ 博物館におけるミュージアム・ショップの役割に関する調査研究

3) 各地の博物館展示案内等の編集業務

博物館等に蓄積された資料や情報を多くの市民に提供し利用に際し、便宜を図ることを目的として、博物館展示ガイドの編集協力等をおこなう。

『三重県中央博物館展示案内』（日本生命財団より受託）

4.地域活性化、文化振興協力事業

多様な文化の振興をめざし、各種文化活動に協力する。

1) 「松下幸之助花の万博記念賞」選考に関する業務（松下幸之助記念財団より受託）

第24回「松下幸之助花の万博記念賞」選考に関する業務を受託し実施する。

「松下幸之助花の万博記念賞」：「自然と人間の共生」という花の万博の基本理念の実現に貢献する、すぐれた学術研究や実践活動を顕彰している。

2) 日本展示学会の事務業務

「日本展示学会」の事務業務を受託し実施する。

「日本展示学会」：展示に関する研究を、技術論だけでなく、社会的・文化的な観点からもひろく研究することを目的とした学会。

1982年に、国立民族学博物館において設立された。

3) 同人雑誌『千里眼』の編集・発行

『千里眼』：千里地域に居住あるいは仕事場をもつ知識人による同人雑誌。

第130号～第133号の4号の編集を受託し発行する。

4) 日本生命財団『高齢社会助成』の制作協力業務

日本生命財団より受託し実施する。

日本生命財団による「高齢社会助成」の紹介パンフ。草創期より事業を先導した三浦文夫氏（日本福祉大学名誉教授）へのインタビュー内容を編集。

平成27年度収支予算書（正味財産増減計算ベース）

（平成27年4月1日～平成28年3月31日）

（単位：円）

	予算額 (A)	前年度予算額 (B)	増減 (A-B)
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1)経常収益			
基本財産運用益	50,000	50,000	0
基本財産受取利息	50,000	50,000	0
受取会費	48,150,000	48,450,000	△ 300,000
維持会員	16,000,000	16,300,000	△ 300,000
正会員	28,600,000	28,600,000	0
家族会員	300,000	300,000	0
キャンパスメンバーズ	2,500,000	2,500,000	0
フリーパス会員	750,000	750,000	0
事業収益	274,790,000	274,490,000	300,000
事業収益	72,500,000	71,030,000	1,470,000
受託事業収益	201,690,000	202,860,000	△ 1,170,000
広告収益	600,000	600,000	0
受取補助金等	7,000,000	7,000,000	0
受取助成金	7,000,000	7,000,000	0
雑収益	10,000	10,000	0
受取利息	10,000	10,000	0
経常収益計	330,000,000	330,000,000	0
(2)経常費用			
事業費	292,830,000	293,030,000	△ 200,000
給料手当	121,879,000	122,100,000	△ 221,000
臨時雇賃金	18,771,000	20,500,000	△ 1,729,000
退職手当	10,000,000	10,000,000	0
法定福利費	21,500,000	20,120,000	1,380,000
福利厚生費	1,200,000	1,470,000	△ 270,000
旅費交通費	6,050,000	4,620,000	1,430,000
通信運搬費	10,300,000	8,005,000	2,295,000
減価償却費	0	0	0
事務委託料	4,500,000	5,750,000	△ 1,250,000
印刷製本費	20,850,000	26,310,000	△ 5,460,000
諸謝金	2,050,000	2,480,000	△ 430,000
会議費	650,000	650,000	0
光熱水費	200,000	200,000	0
消耗品費	810,000	800,000	10,000

(単位：円)

	予算額 (A)	前年度予算額 (B)	増減 (A-B)
負担金	13,100,000	10,550,000	2,550,000
原稿写真委託報酬	9,950,000	10,505,000	△ 555,000
支払手数料	800,000	800,000	0
賃借料	920,000	920,000	0
修繕費	100,000	100,000	0
著作権等使用料	100,000	100,000	0
教材等制作購入費	48,850,000	46,650,000	2,200,000
教材出版物等棚卸差額	0	0	0
館内サービス関係費	250,000	400,000	△ 150,000
管理費	33,620,000	35,120,000	△ 1,500,000
給料手当	17,100,000	17,100,000	0
臨時雇賃金	200,000	200,000	0
退職手当	3,800,000	3,400,000	400,000
法定福利費	2,600,000	2,600,000	0
福利厚生費	210,000	210,000	0
旅費交通費	200,000	450,000	△ 250,000
通信運搬費	450,000	450,000	0
印刷製本費	550,000	550,000	0
諸謝金	1,050,000	1,050,000	0
会議費	380,000	380,000	0
光熱水費	480,000	480,000	0
消耗品費	700,000	700,000	0
負担金	250,000	150,000	100,000
原稿写真委託報酬	300,000	1,550,000	△ 1,250,000
支払手数料	350,000	350,000	0
賃借料	4,800,000	5,300,000	△ 500,000
修繕費	200,000	200,000	0
経常費用計	326,450,000	328,150,000	△ 1,700,000
当期経常増減額	3,550,000	1,850,000	1,700,000
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	3,550,000	1,850,000	1,700,000
一般正味財産期首残高	10,205,796	9,405,782	800,014
一般正味財産期末残高	13,755,796	12,055,796	1,700,000
II 正味財産期末残高	13,755,796	12,055,796	1,700,000